

なぜビルマには世界遺産がないのか？

近藤 節夫

素朴な疑問である。なぜビルマ(ミャンマー)だけ、世界遺産が登録されていないのだろうか？国連の教育科学文化機関・ユネスコが国連加盟国であるビルマに、たったひとつの世界遺産さえ認めない不自然さと不可思議さは、誰しも疑問に思う。

いまビルマは軍事政権支配による非民主化政策のせいで、国際社会で厳しい批判の目にさらされている。ビルマ人は本来穏やかな国民性で争いを好まず、紛争の仲裁役には打ってつけで、在任中ベトナム戦争休戦調停に奔走した、ウ・タント元国連事務総長を生んだお国柄でもある。

ビルマ国内には、世界遺産に登録されて然るべき歴史・文化遺産がいまでも山ほどある。敬虔な仏教徒の文化的伝統を反映して、そのほとんどは仏教遺跡であるが、そんじょそこらの仏跡とは格が違うくらい見事なものばかりである。その中でも、将来ビルマの世界遺産として、最初にノミネートされるであろう「幻の世界遺産」はパガン遺跡群だろう。

パガン遺跡は、11～13 世紀にかけてビルマ族最初のパガン王朝の首都だった。イラワジ川沿いにその数 3,000 と言われる仏塔が立ち並ぶ巨大な遺跡群である。その見事で壮大な姿には神々しさすら漂っている。夕陽に映える静寂な佇まいはまさに、絵にも描けない絶景の美である。いまこのパガン遺跡群が崩壊の危機に瀕している。国家の助成もなく、支援団体の僅かな援助によって修復工事が施されているが、原形とはほど遠い修復となり、人工的な遺産破壊となっている。なぜビルマの遺跡が世界遺産として認められないのか？

答えは簡単である。ビルマはユネスコが管轄する「世界遺産条約」に唯一調印していない国だからである。ビルマの世界(的)遺産は援助もなく、自然に、また人工的に滅びていく。早く手を打たないと、素晴らしい【世界遺産】は姿を消してしまうだろう。